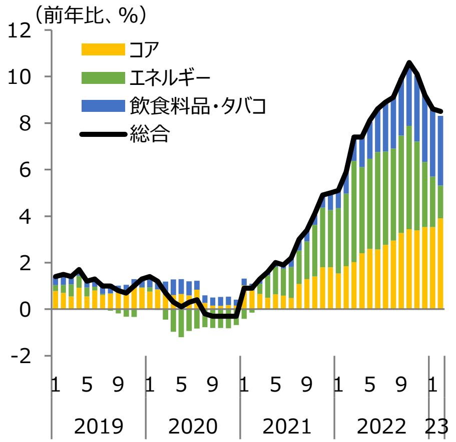
欧州

消費者物価（2023年2月）

伸びは鈍化したが、基調的な物価上昇圧力は強い

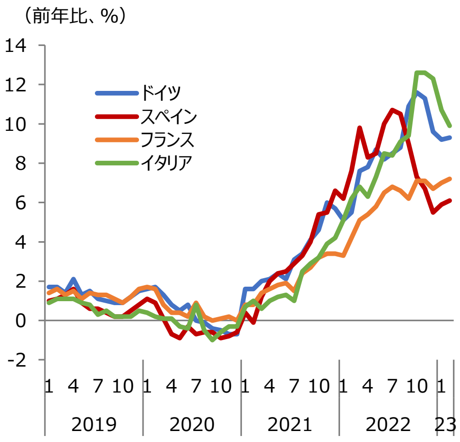
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1　消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



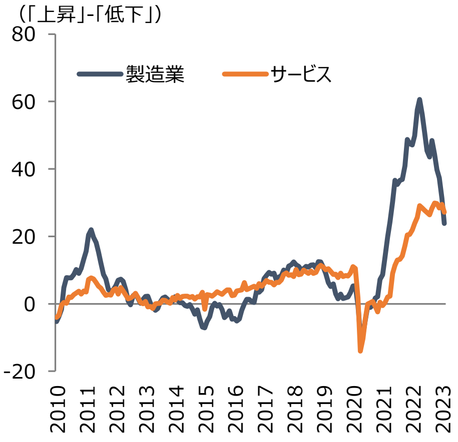
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2　消費者物価（主要国、総合）



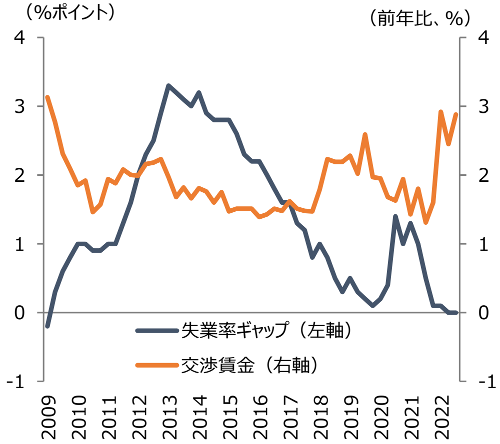
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3　販売価格（ユーロ圏、3カ月先）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

4　賃金と失業率ギャップ（ユーロ圏）



注：失業率ギャップは、失業率とNAWRU（賃金上昇を加速させない失業率、欧州委員会推計）との差。
出所：Eurostat、AMECOより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年2月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+8.5%（図表1）。4カ月連続で伸びは縮小した。
- ユーロ圏の物価上昇の主因であったエネルギー価格は、エネルギー需給緩和や政策効果で伸び鈍化が続いている（前年同月比+13.7%）。一方、ECBの利上げ判断に影響を与えるコア物価は前年同月比+5.6%と、前月（同+5.3%）から伸びが拡大しており、基調的な物価上昇圧力は強い。
- 主要国では、イタリアを除けば伸びが小幅拡大（図表2）。各国エネルギー価格は低下しているが、既往のエネルギー高やユーロ安などの影響が、タイムラグを伴って食料品などの財価格に反映されているとみられる。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、伸びは鈍化したが基調的な物価上昇圧力は強い。
- 先行きの注目は、コア（財とサービス）物価の高止まりが続くかだ。財を中心にコスト上昇要因は徐々にはく落するが、ユーロ圏経済が想定以上に持ちこたえていること、賃金上昇圧力からコア物価は高止まりするとみる。
- 財（除くエネルギー）価格は、コスト上昇分の転嫁一巡から伸びが鈍化するとみる。製造業の3カ月先の販売価格見通しは、エネルギー価格上昇が一服した昨年末以降低下しており、エネルギー価格の低下やユーロ安緩和の影響が徐々に財価格に反映されるとみる（図表3）。
- サービス物価を中心に影響を与える賃金は、物価高の賃金への反映に加え、労働需給のひっ迫から高い伸びが続くとみる。ユーロ圏の失業率は、賃金上昇を加速させない失業率（NAWRU）まで低下しており、賃金は2%台後半の高い伸びとなっている（図表4）。
- コア物価の伸び高止まりから、ECBは年半ばまでは利上げを継続、コア物価の伸び鈍化が確認されるまでは政策金利を維持するとみる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.